

そもそも車酔いの原因とは？

車酔いは自動車特有の振動や加速・減速による遠心力などによって、視覚から入ってくる情報と傾きを感知する内耳の情報伝達にずれが生じ、脳内でうまく統合されないため、自律神経が乱れて起こります。

空腹や満腹状態では車酔いをしやすくなります。
出かける直前の食事は避け、食事量は軽めにしましょう。

揺れに弱い子はシートベルトを活用したり、
体勢が保持出来るトラベルキャリーに入れたりしましょう。
キャリーは運転中に動かないようにしっかりと固定してください。



キャリーを嫌がる場合もありますが、広い場所に座らせると、揺れや傾きに合わせて常に体のバランスを取らねばならず、疲れてしまいます。
ドライブボックスに座らせ、隙間をタオルや小振りのクッションなどで埋めると踏ん張りをせずに楽に座ることができます。

運転の仕方についても急発進や、急ブレーキなどは止めて、
発進停止はなめらかに、スピードを調節したコーナーリングで
優しい運転を心掛けましょう。

もし吐いても大騒ぎせずに、静かに片付けてください。
悪いことをしているわけではないので叱ることも厳禁です。

吐くのではないかとピリピリしていると、その緊張がペットに伝わります。
プレッシャーを与え続けると、車に乗ることが堪え難い苦痛になってしまいます。
心配している素振りを見せないよう、リラックスした姿を見せてあげてください。

ペット用の酔い止め薬は市販品と動物病院で処方してもらうものがあります。

どちらも効き目に個体差がありますし、はじめは動物病院に相談しましょう。

ドライブ中に注意することは？

車内の換気や温度、日差しにも気をつけ、長距離の移動は休憩をはさみましょう。
休憩の時間は1～2時間内に1回くらいが適当です。

高速道路には休憩スポットが、約20kmごとに設置されています。
大人しく車に乗っていたペットも、休みたかったり水が欲しかったり、
トイレが近くなったりするとソワソワし始めますので、
案内標識が見えたら休憩にしましょう。

楽しいドライブになるよう、ペットの健康を第一に考えてあげましょう！